

第54回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	森ゼミ	チーム名	リスク探求心メンバー
タイトル	教えて!!リスク選好!!		
テーマ群	g) その他		
メンバー	星加 輝、紀伊 巧磨、藤原 続也、山本 小桜、横山 響、阪口 紀香		
研究計画内容	<p>【研究背景】 インターネットの普及や新型コロナウイルスの影響などにより、生活習慣の変化、経済的不安は増加している。大きな環境の変化によってギャンブルに手を出す人も増加している。(令和5年度「ギャンブル障害及びギャンブル関連問題実態調査」に関する報告書)では、新型コロナウイルス感染拡大前と比較し、インターネットを使ったギャンブルの利用が増えていることが分かっている。</p> <p>このような現状から、リスクに対する考え、向き合い方を改める必要がある。そのためには、リスク選好的な人の特徴をよりよく理解し、過剰なリスクを避け、適切なリスクを取った行動をとる必要があると考え、本研究に至った。</p>		
	<p>【研究内容】 まず、私達はリスク選好的な行動をとる人の特徴を、論文の先行研究、私達が実際に調査したアンケートから明らかにする。次にその結果に基づいて仮説を立て、重回帰分析を行う。重回帰分析ではリスク選好度をYとし、アンケートの調査から得られる性別、衝動買い、賭け事、年齢、クレジットカードなどに関する要素をXとして分析した。そしてその結果から、仮説が正しいか、どのような人がリスク選好的であるかについてまとめた。</p>		
	<p>【期待される効果】 今回の研究でリスク選好には性別や消費行動の傾向と強く関連しており、単純な賭け事の嗜好や年齢とは関係がないことが分かる。これにより、リスク選好を理解する際には、個人の消費行動や性格に焦点を当てることが重要だという示唆を得ることができる。</p> <p>また、自分や他者のリスク選好の特徴をよりよく理解することで、それに応じた意思決定や戦略を取ることができ、過剰なリスクを避け、適切なリスクをとった行動に期待できる。</p>		
	<p>【参考文献】 厚生労働省 令和5年度「ギャンブル障害及びギャンブル関連問題実態調査」に関する報告書 (調査実施者：独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター) https://www.ncasa-japan.jp/pdf/document97.pdf 依存症対策全国センターホームページ 「依存関連疫学調査・研究報告書等」 https://www.ncasa-japan.jp/docs/research-report</p>		